

# TEM研究会in名古屋大学 「複線径路等至性モデルの臨床事例 への適用をめぐって」

日時 平成26年1月11日(土) 13:00~17:00

場所 名古屋大学教育学部 2階 大講義室

講師 サウトツヤ先生(立命館大学大学院教授)



サウトツヤ先生

東京都立大学大学院博士課程中退、同大学助手、福島大学行政社会学部助教授を経て、2001年より立命館大学助教授、教授。ご専門は応用社会心理学と心理学史と幅広く、最近はTEMを初めとする質的研究法の第一人者としても国内外で精力的にご活躍。サウトツヤ(編著)(2009).TEMではじめる質的研究—時間とプロセスを扱う研究をめざして 誠信書房、安田裕子・サウトツヤ(編著)(2009).TEMではじめる質的研究—時間とプロセスを扱う研究をめざして 誠信書房 など多数。

## プログラム

13:00~13:10 オリエンテーション

13:10~13:40 オープニング・レクチャー

講師 サウトツヤ先生

「複線径路等至性モデルとは」

13:40~15:00 ポスターセッション

長谷守紘 : 「いじめ体験による傷つきを克服し、再登校した不登校生徒の自立の過程」

河合直樹 : 「TEMを用いた非行からの立ち直り過程の分析」

山中大貴他 : 「学校管理下での生徒の事故死を体験した教師の回復過程の分析~立場の異なる3人の教師の語りから~」

成田絵吏 : 「看護専門学校進学をめぐる周囲の人物からの影響について」

渡邊素子 : 「学生相談における危機介入時の情報共有について—TEMによる分析—」

15:20~15:40 質疑応答

15:40~16:50 クロージング・レクチャー

講師 サウトツヤ先生

「複線径路等至性モデルの臨床事例への適用をめぐって(仮題)」

16:50~17:00 閉会行事

TEM(複線径路・等至性モデル: Trajectory equifinality model)とは、人間の成長を時間的変化と文化社会的文脈との関係の中で捉え、記述するための方法論的枠組みで、等至性(Equifinality)という概念を発達の・文化的事象の心理学的研究に組み込もうと考えたValsiner(2001)の考えに基づくもの。

tem アンダーバー nagoya です

申込み・問合せ先: TEM研究会in名古屋大学事務局 ([tem\\_nagoya@yahoo.co.jp](mailto:tem_nagoya@yahoo.co.jp))

当日参加も可能ですが、できるだけ事前申し込み(1/8まで)をお願いします。